

専 門 演 習
知的財産法の最前線

課題テーマ集



2 0 0 2 年度

1 歴史的事実と著作物性

1 テーマ

歴史上の事実を題材とした小説（歴史小説）の著作物性は、どの程度認められるべきか。従来の裁判例をふまえたうえで検討せよ。

2 参考文献

（１）判 例

- ・名古屋地判平成 6 年 7 月 2 9 日判時 1 5 4 0 号 9 4 頁〔「春の波濤」事件：第一審〕
- ・名古屋高判平成 9 年 5 月 1 5 日判タ 9 7 1 号 2 2 9 頁、知的裁集 2 9 巻 2 号 4 6 7 頁〔「春の波濤」事件：控訴審〕
- ・東京地判平成 1 0 年 1 1 月 2 7 日判時 1 6 7 5 号 1 1 9 頁〔「壁の世紀」事件〕
- ・東京地判平成 1 3 年 3 月 2 6 日判時 1 7 4 3 号 3 頁〔「大地の子」事件〕
- ・最判平成 1 3 年 6 月 2 8 日判時 1 7 5 4 号 1 4 4 頁〔「江差追分」事件：上告審〕
- ・京都地判平成 1 3 年 1 2 月 2 0 日〔コルチャック先生事件〕

（２）文 献

- ・設楽隆一「歴史的事実と創作性」『著作権判例百選』（有斐閣、第三版、2 0 0 1 年）1 2 頁
- ・高林龍「歴史的事実とドラマ」『著作権判例百選』（有斐閣、第三版、2 0 0 1 年）1 5 0 頁
- ・吉田大輔「事実に密着した著作物の著作権の侵害」齊藤博＝牧野利秋編『裁判実務大系第 2 7 巻 知的財産関係訴訟法』（青林書院、1 9 9 7 年）1 3 8 頁
- ・中山信弘「著作権法における思想・感情」特許研究 3 3 号 5 頁（2 0 0 2 年）

2 アイディアと著作物性

1 テーマ

著作権法上アイディアは保護されないというが、アイディアとは何なのか。とりわけ、2つの著作物の間でアイディアが共通するにすぎない場合は、著作物の類似性が否定されると考えるべきか。

2 参考文献

(1) 判 例

- ・ 東京地判平成4年12月16日判時1472号130頁〔中国塩政史事件〕
- ・ 大阪高判平成6年2月25日判時1500号180頁〔脳波数理解析論文事件(野川グループ事件): 控訴審〕
- ・ 京都地判平成7年10月19日判時1559号132頁〔たち吉事件〕
- ・ 東京地判平成10年6月29日判時1667号137頁〔地獄のタクシー〕
- ・ 東京地判平成11年12月15日判時1699号145頁〔「みずみずしいすいか」事件: 第一審〕
- ・ 東京高判平成13年6月21日判時1765号96頁〔「みずみずしいすいか」事件: 控訴審〕
- ・ 東京地判平成12年3月23日〔「増田足」図表アイディア事件〕
- ・ 大阪地判平成12年8月24日〔泉北ニュータウン建築設計図事件〕
- ・ 東京高判平成12年11月30日〔アサバン印刷電話帳事件: 控訴審〕
- ・ 東京地判平成13年12月18日〔デス・ゲーム2025事件〕
- ・ 大阪地判平成14年3月12日〔熊崎式姓名学事件〕

(2) 文 献

- ・ 西田美昭「漫画のテレビドラマ化」『著作権判例百選』(有斐閣、第三版、2001年)152頁
- ・ 土門宏「本質的特徴(2) アンコウ行灯事件」『著作権判例百選』(有斐閣、第三版、2001年)124頁
- ・ 田村善之『著作権法概説』(有斐閣、2001年)15頁以下、63頁以下
- ・ 中山信弘「著作権法における思想・感情」特許研究33号5頁(2002年)

3 タイプフェイスの著作物性

1 テーマ

タイプフェイス(フォント)は著作物として保護されるべきか。保護されるとすれば、どのような場合か。

2 参考文献

(1) 判 例

- ・大阪地判平成11年9月21日判時1732号137頁〔デザイン書体事件〕
- ・最判平成12年9月7日判時1730号123頁〔「モリサワ」タイプフェイス事件：上告審〕

(2) 文 献

- ・田村善之『著作権法概説』(有斐閣、2001年)37頁以下
- ・佐藤恵太「デザイン書体」『著作権判例百選』(有斐閣、第三版、2001年)30頁
- ・大家重夫「タイプフェイスの著作物性」『平成12年度重要判例解説』(有斐閣、2001年)276頁
- ・高部眞規子「判批」ジュリスト1203号128頁(2001年)
- ・満田重昭「書道デザイン」『著作権判例百選』(有斐閣、第三版、2001年)34頁

4 ムービーの著作物性

1 テーマ

ムービーの著作物性は認められるべきか。著作物性一般、および応用美術の著作物性をめぐる議論をふまえたうえで、フェアビー人形事件を中心に検討せよ。

2 参考文献

(1) 判例

- ・長崎地佐世保支決昭和48年2月7日無体裁集5巻1号18頁〔博多人形事件〕
- ・東京地判昭和52年11月14日判時869号38頁〔ライダーマン事件〕
- ・東京高判平成13年5月30日〔キューピー人形事件：控訴審〕
- ・山形地判平成13年9月26日判時1763号212頁〔フェアビー人形 - 2事件 [刑事]〕
- ・東京地判平成14年1月31日〔クリスマスムービー事件〕

(2) 文献

- ・田村善之『著作権法概説』(有斐閣、2001年)31頁以下
- ・加戸守行『著作権法逐条講義』(著作権情報センター、三訂新版、2000年)64頁以下
- ・松尾和子「彩色素焼人形 博多人形事件」『著作権判例百選』(有斐閣、第三版、2001年)24頁
- ・半田正夫「応用美術の著作物性について」同著『転機にさしかかった著作権制度』(一粒社、1994年)43頁
- ・満田重昭「デザインと美術の著作物」齊藤博・牧野利秋編『裁判実務大系第27巻 知的財産関係訴訟法』(青林書院、1997年)83頁

5 類似性の判断構造（視聴覚著作物）

1 テーマ

美術の著作物について、類似性はどのように判断すべきか。従来の裁判例を分析しながら検討せよ。

2 参考文献

（１）判 例

- ・ 京都地判平成 7 年 10 月 19 日判時 1559 号 132 頁〔たち吉事件〕
- ・ 東京地判平成 11 年 10 月 27 日判時 1701 号 157 頁〔書と照明器具カタログ事件〕
- ・ 東京地判平成 11 年 11 月 17 日判時 1704 号 134 頁〔キューピー人形（キューピー株式会社）事件：第一審〕
- ・ 東京高判平成 13 年 1 月 23 日判時 1751 号 122 頁〔ケロケロケロピ事件：控訴審〕
- ・ 東京高判平成 13 年 5 月 30 日〔キューピー人形（キューピー株式会社）事件：控訴審〕

（２）文 献

- ・ 田村善之『著作権法概説』（有斐閣、2001 年）48、58 頁以下
- ・ 加戸守行『著作権法逐条講義』（著作権情報センター、三訂新版、2000 年）頁以下
- ・ 土門宏「本質的特徴（２） アンコウ行灯事件」『著作権判例百選』（有斐閣、第三版、2001 年）124 頁
- ・ 駒田泰土「本質的特徴（３） キューピー人形事件」『著作権判例百選』（有斐閣、第三版、2001 年）126 頁
- ・ 岡崎洋「背景の書」『著作権判例百選』（有斐閣、第三版、2001 年）128 頁

6 類似性の判断構造（言語著作物）

1 テーマ

言語の著作物について、類似性はどのように判断すべきか。とりわけ、ドラマの類似性について、従来の裁判例を分析しながら検討せよ。

2 参考文献

（１）判 例

- ・東京地判平成 6 年 3 月 23 日判時 1517 号 136 頁〔ミスターレディー事件〕
- ・東京高判平成 8 年 4 月 16 日判時 1571 号 98 頁〔悪妻物語事件〕
- ・東京地判平成 10 年 6 月 29 日判時 1667 号 137 頁〔地獄のタクシー〕
- ・東京地判平成 10 年 10 月 29 日判時 1658 号 166 頁〔「SMAP 大研究」事件：第一審〕
- ・東京地判平成 11 年 1 月 29 日判時 1680 号 119 頁〔「ゴロで覚える古文単語記憶術」事件：第一審〕
- ・東京高判平成 11 年 5 月 26 日〔「SMAP 大研究」事件：控訴審〕
- ・東京高判平成 11 年 9 月 30 日判タ 1018 号 259 頁〔「ゴロで覚える古文単語記憶術」事件：控訴審〕
- ・最判平成 13 年 6 月 28 日民集 55 巻 4 号 837 頁、判時 1754 号 144 頁〔「江差追分」事件：上告審〕
- ・東京高判平成 13 年 10 月 30 日〔交通安全スローガン事件：控訴審〕

（２）文 献

- ・田村善之『著作権法概説』（有斐閣、2001 年）63 頁以下
- ・斉藤博「テレビドラマの制作・放映と放送事業者の責任」『著作権判例百選』（有斐閣、第三版、2001 年）218 頁
- ・小泉直樹「ドキュメンタリー番組の製作」『著作権判例百選』（有斐閣、第三版、2001 年）148 頁
- ・西田美昭「漫画のテレビドラマ化」『著作権判例百選』（有斐閣、第三版、2001 年）152 頁

7 編集著作物の著作物性

1 テーマ

編集著作物における「素材」とは何と考えるべきか。どのような場合に、編集著作物は著作物性を認められるべきか。職業別電話帳は著作物と認めるべきか。

2 参考文献

(1) 判例

- ・東京地判平成10年5月29日判時1673号130頁〔「知恵蔵」事件：第一審〕
- ・東京地判平成11年2月25日判時1677号130頁〔「松本清張作品映画化リスト」事件〕
- ・東京高判平成11年10月28日判時1701号146頁〔「知恵蔵」事件：控訴審〕
- ・東京地判平成12年3月17日判時1714号128頁〔「タウンページデータベース」事件〕
- ・東京地判平成12年3月23日判時1717号140頁〔色画用紙見本帳事件〕

(2) 文献

- ・田村善之『著作権法概説』（有斐閣、2001年）23頁以下
- ・加戸守行『著作権法逐条講義』（著作権情報センター、三訂新版、2000年）125頁以下
- ・佐藤恵太「特定作家が執筆した小説の映画化リスト」『著作権判例百選』（有斐閣、第三版、2001年）74頁
- ・白田秀彰「レイアウト・フォーマット」『著作権判例百選』（有斐閣、第三版、2001年）76頁
- ・吉田正夫「素材の選択」『著作権判例百選』（有斐閣、第三版、2001年）78頁
- ・盛岡一夫「職業別電話帳」『著作権判例百選』（有斐閣、第三版、2001年）80頁
- ・横山久芳「編集著作物に関する基礎的考察 職業別電話帳は果たして著作物なのか？」『コピライト』475号2頁（2000年）

8 編集著作物の類似性

1 テーマ

編集著作物の類似性はどのように判断されるべきか。選択と配列に共通性があれば、素材が異なっても類似性が認められるべきか。その場合、アイデアが保護されていることになりはしないか。

2 参考文献

(1) 判 例

- ・東京高判昭和60年11月14日無体裁集17巻3号544頁〔アメリカ語要語集事件〕
- ・東京高判平成7年1月31日判時1525号150頁〔会社案内パンフレット事件：控訴審〕
- ・大阪地判平成7年3月28日知的裁集27巻1号210頁〔商品カタログ著作物事件〕
- ・東京高判平成12年11月30日〔アサバン印刷電話帳事件：控訴審〕

(2) 文 献

- ・田村善之『著作権法概説』（有斐閣、2001年）80頁以下
- ・渋谷達紀「辞典」『著作権判例百選』（有斐閣、第三版、2001年）64頁
- ・蘆立順美「商品カタログ」『著作権判例百選』（有斐閣、第三版、2001年）72頁
- ・蘆立順美「会社案内パンフレットに関する編集著作権の侵害」法学〔東北大学〕61巻4号843頁（1997年）
- ・関堂幸輔「会社案内」『著作権判例百選』（有斐閣、第三版、2001年）70頁

9 創作的関与

1 テーマ

著作者として認められるかのための創作的関与とは、どのようなものと考えるべきか。著作者として認められるかどうかの問題となった従来の裁判例をもとに分析せよ。

2 参考文献

(1) 判 例

- ・ 東京地判昭和50年3月31日判タ328号362頁〔「私は貝になりたい」事件〕
- ・ 東京地判昭和55年9月17日判時975号3頁〔「地のさざめごと」事件〕
- ・ 大阪地判平成4年8月27日判時1444号134頁〔静かな焔事件〕
- ・ 最判平成5年3月30日民集168号下599頁、判時1461号3頁〔智恵子抄事件〕
- ・ 東京地判平成10年10月29日判時1658号166頁〔「SMAP大研究」事件：第一審〕
- ・ 東京高判平成11年5月26日〔「SMAP大研究」事件：控訴審〕
- ・ 東京地判平成13年12月25日〔石油精製論文事件〕
- ・ 東京地判平成14年3月25日〔「宇宙戦艦ヤマト」著作者事件〕

(2) 文 献

- ・ 中村稔「原案の提供」『著作権判例百選』（有斐閣、第三版、2001年）92頁
- ・ 牧野利秋「漫画の共同作成」『著作権判例百選』（有斐閣、第三版、2001年）96頁
- ・ 横山久芳「判批（東京地判平成10年10月29日）」ジュリスト1184号130頁（2000年）
- ・ 田村善之『著作権法概説』（有斐閣、2001年）364頁以下
- ・ 加戸守行『著作権法逐条講義』（著作権情報センター、三訂新版、2000年）23頁以下

10 共同著作物

1 テーマ

共同著作が認められるためにどのような要件を満たすことが必要と考えるべきか。共同著作物は、結合著作物や二次的著作物とはどのような関係に立つか。たとえば、草稿を残したまま死亡した師匠の論文を、その弟子が完成させた場合（異時的創作）共同著作物になると考えるべきか。

2 参考文献

（１）判 例

- ・大阪高判平成 6 年 2 月 2 5 日判時 1 5 0 0 号 1 8 0 頁〔脳波数理解析論文事件（野川グループ事件）：控訴審〕
- ・東京地判平成 9 年 3 月 3 1 日判時 1 6 0 6 号 1 1 8 頁〔「だれでもできる住宅介護」事件：第一審〕

（２）文 献

- ・半田正夫『著作権法概説』（一粒社、第 1 0 版、2 0 0 1 年）6 7 ～ 7 6 頁
- ・田村善之『著作権法概説』（有斐閣、第二版、2 0 0 1 年）3 6 8 ～ 3 7 3
- ・小泉直樹「共同研究 野川グループ」『著作権判例百選』（有斐閣、第三版、2 0 0 1 年）9 4 頁
- ・柳沢眞実子「インタビュー記事」『著作権判例百選』（有斐閣、第三版、2 0 0 1 年）9 8 頁
- ・古城春美「共同著作」齊藤博・牧野利秋編『裁判実務大系 2 7 知的財産関係訴訟法』（青林書院、1 9 9 7 年）2 4 6 頁
- ・中村稔「原案の提供 私は貝になりたい事件」『著作権判例百選』（有斐閣、第二版、1 9 9 4 年）1 1 6 頁

1 1 原作者と漫画家

1 テーマ

原作者と漫画家の共作による漫画について、そのキャラクターのみを利用する行為に原作者の権利はおよぶと解するべきか？ キャンディキャンディ事件を素材として著作権法28条の権利をめぐる議論について検討せよ。

2 参考文献

(1) 判 例

- ・東京地判平成11年2月25日判時1673号66頁〔「キャンディキャンディ」事件：第一審〕
- ・東京高判平成12年3月30日判時1726号162頁〔「キャンディキャンディ」事件：控訴審〕
- ・最判平成13年10月25日判時1767号115頁〔「キャンディキャンディ」事件：上告審〕

(2) 文 献

- ・田村善之『著作権法概説』（有斐閣、2001年）111頁以下、373頁以下
- ・加戸守行『著作権法逐条講義』（著作権情報センター、三訂新版、2000年）202頁以下
- ・堀江亜以子「漫画と原作 キャンディキャンディ事件」『著作権判例百選』（有斐閣、第三版、2001年）156頁
- ・長塚真琴「判批〔東京地判平成11年2月25日〕漫画の登場人物と原作者の著作権」北大法学50巻5号1247頁（2000年）

12 職務著作

1 テーマ

職務著作は、どのような要件で成立すると考えるべきか。著作権法15条の要件をめぐる従来の議論状況を分析しながら検討せよ。

2 参考文献

(1) 判例

- ・大阪地判平成5年3月23日判時1464号139頁〔山口組五代目継承式事件〕
- ・名古屋地判平成7年3月10日判時1554号136頁〔在宅管理プログラム事件〕
- ・東京地判平成8年9月27日判時1645号134頁〔四谷大塚事件：第一審〕
- ・東京高判平成10年2月12日判時1645号129頁〔四谷大塚事件：控訴審〕
- ・大阪地判平成12年12月26日〔「マイコンテストボックス」プログラム事件〕
- ・東京地判平成14年2月25日（マクロス事件）

(2) 文献

- ・田村善之『著作権法概説』（有斐閣、2001年）367頁以下
- ・半田正夫『著作権法概説』（一粒社、第10版、2001年）76頁以下
- ・斉藤博『著作権法』（有斐閣、2000年）114頁
- ・加戸守行『著作権法逐条講義』（著作権情報センター、三訂新版、2000年）139頁以下
- ・田村善之「職務著作の要件構造」ジュリスト1132号38頁（1998年）
- ・茶園成樹「著作権法15条における公表名義の要件」阪大法学49巻3・4号449頁（1999年）
- ・中山信弘「コンピュータ・プログラム等と法人著作」『著作権判例百選』（有斐閣、第三版、2001年）84頁
- ・野一色勲「転載と開発」『著作権判例百選』（有斐閣、第三版、2001年）88頁

13 カラオケをめぐる判例理論

1 テーマ

カラオケスナックやカラオケボックスにおける歌唱の主体ないし演奏権侵害について、ならびに、業務用カラオケ機器のリース業者の責任について、従来の裁判例はどのような法理を定立しているか。そしてそれは妥当と考えるべきか。

2 参考文献

(1) 判 例

- ・最判昭和63年3月15日民集42巻3号199頁〔クラブ・キャッツアイ事件：上告審〕
- ・カラオケボックス事件
- ・大阪地決平成9年12月12日判時1625号101頁〔カラオケボックス事件：仮処分〕
- ・東京高判平成11年7月13日判時1696号137頁〔カラオケボックス事件：控訴審〕
- ・最判平成13年3月2日判時1744号108頁、民集55巻2号185頁〔ビデオメイツ事件：上告審〕

(2) 文 献

- ・田村善之『著作権法概説』（有斐閣、2001年）174頁以下
- ・加戸守行『著作権法逐条講義』（著作権情報センター、三訂新版、2000年）173頁以下
- ・上野達弘「カラオケ・リース業者の責任」コピライト491号34頁（2002年）
- ・田村善之「判批〔東京高判平成11年11月29日〕」NBL694号14頁（2000年）
- ・山口裕博「リース業者の責任」『著作権判例百選』（有斐閣、第三版、2001年）216頁
- ・角田政芳「個室内の演奏」『著作権判例百選』（有斐閣、第三版、2001年）132頁
- ・井上由里子「カラオケによる歌唱」『著作権判例百選』（有斐閣、第二版、1994年）16頁

14 インターネット送信とプロバイダーの責任

1 テーマ

「Napster」や「ファイルログ」といったいわゆるファイル交換サービスにおいて、これを利用するユーザ、およびサービスを提供している事業者の行為は、著作権法上どのような評価をすべきか。また、どのような責任を負うべきか。

2 参考文献

(1) 判 例

- ・東京地判平成13年12月3日判時1768号116頁〔コメットハンター事件〕
- ・東京地決平成14年4月9日〔ファイルログ事件：仮処分〕

(2) 文 献

- ・田村善之『著作権法概説』（有斐閣、2001年）181頁以下
- ・田村善之「インターネット上の著作権侵害とプロバイダーの責任」ジュリスト1171号69頁（2000年）
- ・茶園成樹＝青江秀史「インターネットと著作権法」松井茂記＝高橋和之編『インターネットと法』（有斐閣、第二版、2001年）215頁
- ・茶園成樹「インターネットによる著作物の流通と著作権法」『情報技術革命と著作権制度』（著作権情報センター、2002年）122頁
- ・上野達弘「プロバイダーの責任 プロバイダーに対する差止を中心に」著作権研究28号（2002年近刊）

15 中古ゲームソフト販売

1 テーマ

中古ゲームソフトを公に販売することは許されるべきか。これまでの裁判例の経緯と学説状況を分析しながら検討せよ。

2 参考文献

(1) 判 例

- ・ 東京地判平成11年5月27日判時1679号3頁〔中古ゲームソフト販売事件〔東京訴訟〕：第一審〕
- ・ 大阪地判平成11年10月7日判時1699号48頁〔中古ゲームソフト事件〔大阪訴訟〕：第一審〕
- ・ 東京高判平成13年3月27日判時1747号60頁〔中古ゲームソフト販売事件〔東京訴訟〕：控訴審〕
- ・ 大阪高判平成13年3月29日判時1749号3頁〔中古ゲームソフト販売事件〔大阪訴訟〕：控訴審〕
- ・ 最判平成14年4月25日〔中古ゲームソフト販売事件〔大阪訴訟〕：上告審〕

(2) 文 献

- ・ 田村善之『著作権法概説』（有斐閣、2001年）159頁以下
- ・ 加戸守行『著作権法逐条講義』（著作権情報センター、三訂新版、2000年）184頁以下
- ・ 三木茂「ゲームソフトの頒布（1）」『著作権判例百選』（有斐閣、第三版、2001年）52頁
- ・ 作花文雄「ゲームソフトの頒布（2）」『著作権判例百選』（有斐閣、第三版、2001年）54頁
- ・ 小倉秀夫「優越的地位ないし頒布権を利用したゲームソフトの中古販売規制の可否」中山信弘編『知的財産権研究』（東京布井出版、1999年）153頁
- ・ 石岡克俊「判批〔東京地判平成11年5月27日〕」ジュリスト1170号277頁（2000年）

16 ゲームソフトの改変

1 テーマ

シミュレーションゲームのストーリーを改変する行為は、同一性保持権の侵害になると考えるべきか。ゲームソフトの改変にかかわる従来の裁判例および学説をふまえたうえで検討せよ。

2 参考文献

(1) 判 例

- ・大阪地判平成9年7月17日知的裁集29巻3号703頁〔NEO・GEO事件：第一審〕
- ・大阪地判平成9年11月27日判タ965号253頁〔ときめきメモリアル事件：第一審〕
- ・東京高判平成11年3月18日判時1684号112頁〔三国志 事件：控訴審〕
- ・大阪高判平成11年4月27日判時1700号129頁〔ときめきメモリアル事件：控訴審〕
- ・最判平成13年2月13日判時1740号78頁〔ときめきメモリアル事件：上告審〕

(2) 文 献

- ・渡邊修「ゲームのストーリーの改変」『著作権判例百選』（有斐閣、第三版、2001年）118頁
- ・上野達弘「判批〔最判平成13年2月13日〕」民商125巻6号（2002年近刊）
- ・作花文雄「判批〔最判平成13年2月13日〕」判例評論512号32頁（2001年）
- ・高部真規子「判批〔最判平成13年2月13日〕」ジュリスト1219号139頁（2002年）
- ・田村善之『著作権法概説』（有斐閣、2001年）439頁以下

17 引用の要件

1 テーマ

他人の著作物を引用することは、どのような要件で許されるべきか。従来の裁判例を踏まえながら検討せよ。

2 参考文献

(1) 判 例

- ・東京高判昭和60年10月17日判時1176号34頁〔レオナルド・フジタ事件：控訴審〕
- ・東京地判平成10年2月20日判時1643号176頁〔バーズコレクション事件〕
- ・東京地判平成10年10月30日判時1674号132頁〔「血液型と性格」事件〕
- ・東京高判平成12年4月25日判時1724号124頁〔「脱ゴーマニズム宣言」事件：控訴審〕
- ・東京高判平成14年4月11日〔絶対音感事件：控訴審〕

(2) 文 献

- ・田村善之『著作権法概説』（有斐閣、2001年）240頁以下
- ・加戸守行『著作権法逐条講義』（著作権情報センター、三訂新版、2000年）232頁以下
- ・大楽光江「引用」『著作権判例百選』（有斐閣、第三版、2001年）162頁
- ・上野達弘「漫画の引用」『著作権判例百選』（有斐閣、第三版、2001年）166頁
- ・岡邦俊「展覧会チケットへの引用」『著作権判例百選』（有斐閣、第三版、2001年）168頁
- ・半田正夫「翻案による引用」『著作権判例百選』（有斐閣、第三版、2001年）170頁

18 職務発明と補償金

1 テーマ

会社の従業者によって職務上、発明がおこなわれた場合、誰に特許を受ける権利その他の権利が帰属するか。その際、発明者である従業者はどのような報酬を得るのか。現状や今後の課題をふくめて論ぜよ。

2 参考文献

(1) 判 例

- ・大阪地判平成6年4月28日判時1542号115頁〔象印マホービン事件〕
- ・大阪高判平成6年5月27日判時1532号118頁〔ゴーセン事件：控訴審〕
- ・東京地判平成14年9月19日〔日亜化学職務発明事件：中間判決〕
- ・東京高判平成13年5月22日判時1753号23頁〔オリンパス光学発明報奨金事件：上告審〕

(2) 文 献

- ・中山信弘『工業所有権法上』（弘文堂、第2版増補版、2000年）65頁以下
- ・竹田和彦『特許の知識 理論と実際』（ダイヤモンド社、第6版、1999年）300頁以下
- ・中山信弘＝相澤英孝「職務発明の現代的位置づけ 特許法35条改正の動きをめぐって - 」
L & T 14号4頁（2001年） 上野所蔵
- ・日本感性工学会IP研究会編著『職務発明と知的財産国家戦略』（経済産業調査会、2002年）
上野所蔵

19 ブランド商品の並行輸入

1 テーマ

真正のブランド商品が外国から並行輸入された場合、国内の商標権者はこれを差止めることができるか。

2 参考文献

(1) 判 例

- ・大阪地判昭和45年2月27日判時625号75頁〔PARKER 事件〕
- ・東京地判昭和59年12月7日判時1141号143頁〔LACOSTE 事件〕
- ・大阪高判平成14年3月29日〔フレッドベリー商標並行輸入事件：控訴審〕

(2) 文 献

- ・田村善之『商標法概説』（弘文堂、第2版、2000年）468頁以下

20 使い捨てカメラの詰め替えと並行輸入

1 テーマ

外国で販売された「写ルンです」などのレンズ付きフィルム（使い捨てカメラ）の使用済みのものを回収し、フィルムを再充填したうえで、これを日本国内で販売する行為は許されるべきか。特許製品の並行輸入問題とあわせて論ぜよ。

2 参考文献

（１）判 例

- ・最判平成 9 年 7 月 1 日判時 1 6 1 2 号 3 頁〔ＢＢＳ並行輸入事件：上告審〕
- ・東京地判平成 1 2 年 8 月 3 1 日〔写ルンです事件〕

（２）文 献

- ・中山信弘『工業所有権法上』（弘文堂、第 2 版増補版、2 0 0 0 年）3 6 1 頁以下

2 1 ノベルティと商標権

1 テーマ

B O S S ジャンのように、いわゆる「ノベルティ」として、販売促進用に無償で配布される物に他人の登録商標が付されている場合、商標権侵害になると考えるべきか。

2 参考文献

(1) 判 例

- ・東京地判昭和36年3月2日下民集12巻3号410頁〔趣味の会事件〕
- ・大阪地判昭和62年8月26日無体集19巻2号268頁〔B O S S 事件〕
- ・横浜地川崎支判昭和63年4月28日無体裁集20巻1号223頁、判時1301号144頁〔劇団木馬座事件〕

(2) 文 献

- ・田村善之『商標法概説』（弘文堂、第二版、2000年）239～256頁
- ・山口栄一「いわゆるノベルティと商標権侵害」『知的財産権法の現代的課題』紋谷暢男還暦記念（発明協会、1998年）343頁以下
- ・塩入明「ノベルティと第三者の商標権」特許管理39巻1号45頁（1989年）
- ・朝比奈宗太「宣伝広告及び販売促進用の物品についての登録商標の使用と商標権の侵害」『判例商標法』村林隆一先生還暦記念論文集（発明協会、1991年）59頁
- ・島田富美子「宣伝広告及び販売促進の為に無償で提供される物品（ノベルティ）について」中山信弘＝小島武司編集代表『知的財産権の現代的課題』本間崇先生還暦記念（信山社、1995年）76頁
- ・井上由里子「商標法における自他商品識別機能と『商品』概念 木馬座事件」中山信弘編『知的財産権研究』（東京布井出版、1995年）137頁

2 2 馬名パブリシティ権

1 テーマ

競走馬の名前をその所有者に無断でゲームに利用することは違法か。従来の裁判例を分析しながら、議論状況を整理せよ。

2 参考文献

(1) 判 例

- ・名古屋地判平成12年1月19日判タ1070号233頁〔ギャロップレーサー事件：第一審〕
- ・名古屋高判平成13年3月8日判タ1071号294頁〔ギャロップレーサー事件：控訴審〕
- ・東京地判平成13年8月27日判時1758号3頁〔ダービースタリオン事件：第一審〕
- ・東京高判平成14年9月12日〔ダービースタリオン事件：控訴審〕

(2) 文 献

- ・新井みゆき・知財管理50巻11号1749頁(2000年)
- ・小倉秀夫・C I P I Cジャーナル107号49頁(2000年)
- ・三浦正広・発明98巻4号109頁(2001年)
- ・桑野雄一郎「動物の名前」『著作権判例百選』(有斐閣、第三版、2001年)200頁
- ・三浦正広・岡山商大法学論叢10号65頁(2002年)

2 3 商品の形態と「商品等表示」

1 テーマ

ジーンズのステッチや、パソコンの外観など、商品の形態が類似する商品が他人によって販売されたとき、不正競争防止法2条1項1号にもとづく差止・損害賠償請求をおこなうことができるのは、具体的にはどのような場合か。「商品等表示」や「混同」をめぐる従来の裁判例を分析しつつ検討せよ。

2 参考文献

(1) 判 例

- ・東京地判昭和57年10月18日判タ499号178頁〔ルービックキューブ事件〕
- ・東京地判平成12年6月28日判時1713号115頁〔リーバイス・ステッチ事件：第一審〕
- ・東京高判平成13年12月26日判時1788号103頁〔リーバイスステッチ事件：控訴審〕
- ・東京地判平成11年6月29日判時1693号139頁〔ブリーツ・ブリーズ事件〕
- ・東京地決平成11年9月20日判時1696号76頁〔「e One」事件〕

(2) 文 献

- ・田村善之『不正競争防止法概説』（有斐閣、1994年）30頁以下
- ・通商産業省知的財産政策室監修『逐条解説 不正競争防止法』（有斐閣、1994年）27頁以下
- ・松本直樹「e - o n e を i M a c と 混 同 す る 人 が 居 る か ？ 」
<<http://village.infoweb.ne.jp/~mat/EONE.HTM>>
- ・松尾和子・判例評論498号21頁（2000年）